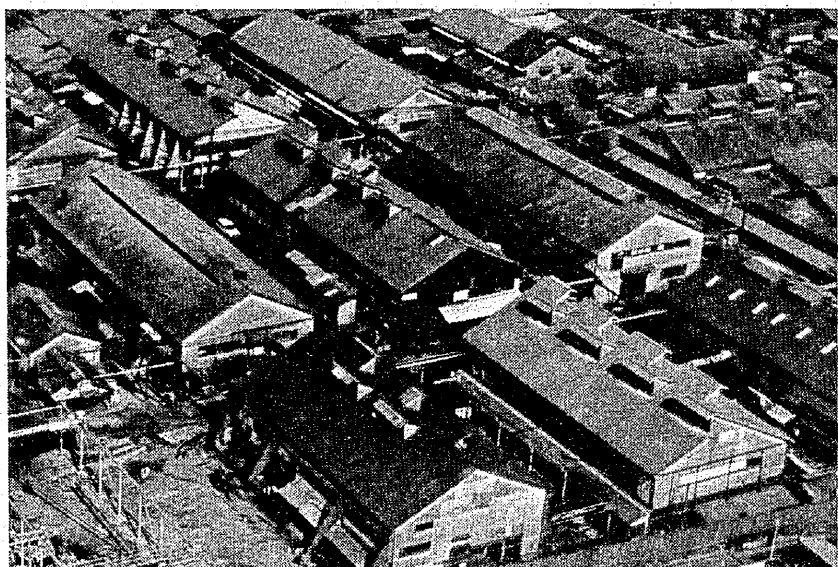


会社、四山・三川鉱坑外の全面下請化を提案

合理化許さず、労働条件向上を



三川鉱の坑外修繕工場を空から

修理工場を有明機械へ

坑外直轄全員の配置替えを企図

七月六日、三池炭鉱所は四山鉱と三川鉱の坑外修繕工場の修理作業を有明機械と有明電機に外注し、直轄工を全廃配置替えしたいと提案してきました。従来から下請化はすすめてきましたが、この坑外各部門の合理化をさらに推進するという考え方を明らかにしています。三池炭組は、この提案は既存の職場を奪い、低賃金を押しつけ、労働者の生活と権利を剥奪するものだととして、近く具体的な対応を検討し、たたかいをすすめることとしています。

提案内容

- (1) 四山鉱
 - (イ) 修繕品の諸調査(修理ポイントの要点指示、立会検査、降下指示)
 - (ロ) 坑外の車道補修
 - (ハ) ビット研磨、鋼目立
 - (ニ) 小物品の回収手入れ
- (2) 三川鉱
 - (イ) 修繕品の諸調査(修理ポイントの要点指示、立会検査、降下指示)
 - (ロ) 炭車修理
 - (ハ) 坑外の車道補修
 - (ニ) 炭函かすり
 - (ホ) 木片回収(女、または技術のない者)
 - (ヘ) 小物品の回収手入れ
 - (ニ) 標識等のペンキ塗装

この提案を聞いた坑外職場では、「無茶な提案だ」「俺たちを使い捨てるな」と怒りの声をあげています。

三、ローダー修理、カッター修理等は有明機械および有明電機に外注する。

四、実施時期については、希望として八月中旬ごろを希望している。

炭労、期末闘争に全力

五十万円満額獲得めざす

七月十一日から開かれた炭労第一〇六回定期大会で、上期期末手当闘争方針が決定されました。要求額は前期に比べて五十万円となっており、満額獲得を目指して十四日に要求書を提出、二十五日前後の決着を目指しています。

昨年の期末手当闘争は、きびしい情勢の中でたたかわれ、資本の意図した一億四千万円の壁を突破したものの、依然として低額に推移しています。

七月十一日から開かれた炭労第一〇六回定期大会は、二年間の運動方針、期末手当闘争方針、秋期闘争方針、社会保障制度改善反対闘争方針、石炭政策提言、第八次政策確立闘争方針、さらに予算、カンパなどを決定し、新役員を選出して三日間の大会を終わりました。



大会で選出された新執行部、あいさつする橋本委員長

大会の焦点は、総括を含む二三年間のたたかひの方針、とりわけ新石炭政策提言と第八次石炭政策の実現に向けて、どう産業別統一闘争をすすめていくかという問題でした。

新「政策提言」を決定

世間並みの労働条件獲得こそ急務、新委員長に橋本亮氏(高島)

炭労大会

七月十一日から東京・池之端文化センターで開かれた炭労第一〇六回定期大会は、二年間の運動方針、期末手当闘争方針、秋期闘争方針、社会保障制度改善反対闘争方針、石炭政策提言、第八次政策確立闘争方針、さらに予算、カンパなどを決定し、新役員を選出して三日間の大会を終わりました。

地底

▼十四日九州北部にも梅雨明け宣言が出ていよいよ盛夏。八四原水爆禁止世界大会に向けて炎天下の平和行進がすすむ。

しかし、春闘での低額妥結、連続的な低賃金、物価上昇は私たちの生活を圧迫し、まさにガマンの限界にきています。

他産業の要求額は年額にして百万円から百十五万円、妥結は百万円から百五十万円、鉄鋼は百万円でした。炭鉱の場合は昭和五十七年下期に四十四万三千円を獲得しましたが、その一進一退という妥結状況で、五十万円要求も六期落すためにマイトを装填し結線したとき、他の係員が点火し暴発したとき、有明鉱では六月十一日も発破事故が起っています。

マイト暴発

有明鉱で重傷

七月十三日午前四時ごろ有明鉱第二上層東四御岳で発破事故が起り、係員の井上一国さん(四十一歳)が顔面挫創、右胸と右腕を強く打撲する重傷を負いました。現場の状況は、固着枠の移動のためカッパ(十四セット)上の硬を落すためにマイトを装填し結線したとき、他の係員が点火し暴発したとき、有明鉱では六月十一日も発破事故が起っています。